

# 第1回市島地域市立小学校統合検討委員会 会議録

◇開 会	令和2年 6月30日 (火)	午後 7時30分		
◇閉 会	令和2年 6月30日 (火)	午後 9時30分		
◇会 場	ライフピアいちじま研修室			
・委員長	川上 泰彦	・副委員長 坂根 眞一		
・委員	青木 修	坂谷 高義	木寺 章	淵上 利美
	吉見 祐也	藤原 一平	井上航太郎	近藤 真司
	北村 由香	田中 亮太	長井 勇人	荻野 篤志
	岡 大豪	志堅原 愛	由良 英樹	吉井 公乃
	井上 美菜	荻野 幸広	蘆田 勤	吉見 典彦
	足立 圭造	八尾 滋樹	植木 琢也	荻野 尚子
	余田 淳子			

## 〔事務局〕

・教育長	岸田 隆博
・教育部長	藤原 泰志
・教育部次長兼学校教育課長	足立 和宏
・学校教育課指導主事	榊 国光
・学校教育課指導主事	西垣 雅文
・学事課長	井尻 宏幸
・教育総務課長	足立 勲
・教育総務課学校統合準備係長	船越 正一
・教育総務課主事	畑中 直之
・教育総務課指導主事	小田 敏治

## 次第

(足立教育総務課長)

### 1 開会

定刻となりましたので、ただいまから第1回丹波市市島地域市立小学校統合検討委員会を開会いたします。

私は、本日の進行を務めます丹波市教育委員会教育総務課長の足立勲と申します。どうぞよろしく願いいたします。

会議を始める前に、委員の皆様へ配付資料の確認と注意事項がございます。

まず、本日の配付資料につきましては、事前に郵送させていただいております。お忘れの方はございませんでしょうか。また、机の上に学校要覧、そして、この会議、委員会の傍聴規則を本日、配付をさせていただいております。御確認をいただきたいと思っております。

次に、この委員会についての注意事項です。本日の委員会は、公開して開催するため、傍聴席を設けております。また、委員会の会議録を作成いたしますので、録音をさせていただきます。会議録作成の関係から、発言の際は、マイクを持ってまいりますので、名前を登せられてから御発言いただきますようお願いいたします。会議録につきましては、教育委員会ホームページに後日掲載いたします。

教育委員会、またはこの委員会からの情報発信、記録のために写真撮影を行います。また、報道機関の方も写真撮影される場合がありますので、御了承ください。

次に、傍聴席の皆様へお願いです。本日、正副委員長選出の後に、本会議の傍聴規則を定めていただきますので、その規則に基づいて傍聴いただきますようお願いいたします。傍聴規則は決定の後、配付をさせていただ

きます。また、委員会の資料を傍聴者用として準備いたしておりますので、御覧いただきながら傍聴いただければと思います。

## 次第

(足立教育総務課長)

## 2 あいさつ

それでは、会議次第に基づきまして進めさせていただきます。

開会にあたりまして、丹波市教育委員会、岸田隆博教育長から御挨拶を申し上げます。

(岸田教育長)

皆さん、こんばんは。平素は丹波市の教育の推進につきまして、御理解と御尽力を賜っておりますこと、この場をお借りしまして、厚くお礼を申し上げます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症に伴い、長期の臨時休業を余儀なくされるという事態になりました。その間、保護者の皆様、地域の皆様には、本当に心配をおかけしました。しかしながら、皆様の御協力、また、子供たちの頑張りによって、6月15日から学校給食、部活動を初め、教育活動を全面再開することができました。現在のところ、大きな事件、事故もなく、子供たちは元気に学校に通っております。今後は、感染症拡大防止はもちろんのこと、熱中症も心配になりますので、熱中症対策にも万全を期しながら、子供たちが安全で、そして元気に楽しく学べる学校づくりに今まで以上に邁進してまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

さて、市島地域市立小学校の統合につきましては、皆さんも御存じのとおり、約5年にわたって19回にわたる市島地域のこれからの教育を考える会を開催いただき、できるだけ早い時期の統合が望ましいという提言を頂いたところでございます。この場で山南、青垣で統合の話合いを設けてきましたが、その折は、この提言を受けて、すぐに統合準備委員会を設立し、統合に向けた話合いを行ってきたところでございます。

しかしながら、昨年、市島で実施しました市島地域のこれからの教育を考えるフォーラム、あるいは、市島地域のこども園、小学校の保護者を対象とした意見交換会におきまして、統合に賛否両論の御意見もありました。丹波市教育委員会では、それらの意見を受けまして、すぐに準備委員会に移行するのではなく、いま一度、検討する場を設け、丁寧な議論をする場を設けることが必要であると考えまして、学校の学識経験者、それから、各自治振興会、PTA、こども園の保護者、学校関係者、こども園関係者で組織する丹波市市島地域市立小学校統合検討委員会を設置したところでございます。

この検討委員会では、平成30年に市島地域のこれからの教育を考える会から頂きました貴重な提言はもちろんのこと、昨年度のフォーラム、意見交換会の状況、今後の児童数の推移などを踏まえていただき、市島地域小学校の統合の是非について、結論を出していただきたいと考えております。委員の皆様におかれましては、これからの子供たちのより良い教育環境がどうあるべきか、それぞれのお立場で積極的に御意見を頂きますようお願い申し上げます、開会にあたっての御挨拶とさせていただきます。よろしく願いをいたします。

## 次第

(足立教育総務課長)

## 3 丹波市市島地域市立小学校統合検討委員会設置要綱について

それでは、続きまして、次第3番になります丹波市市島地域市立小学校統合検討委員会設置要綱について、その概要を御説明いたします。資料は1ページと2ページを御覧ください。

この要綱の第2条では、所掌事項として、市島地域5小学校の統合協議に関することを規定しています。具体的には、先ほど教育長の挨拶の中にもありましたように、統合の是非についての結論を出していただくということになっております。

第3条の組織では、(1)から(6)までに掲げますそれぞれの団体、学識者の方に出していただいて、28人でその委員会を構成しております。

続いて、第4条では、任期ということで、この委員の任期を規定しておりますが、所掌事項の協議が終了するまでということになっておりますので、統合の是非についての結論が出るまでということになっております。

第5条では、委員長及び副委員長について定めています。これにつきましては、後ほど選出いただくことになっております。

第6条では、この委員会は、委員の半数以上が出席しなければ開催できないということを定めております。

第7条では、委員長が必要と認めるときは、識見を有する者や関係者を出席させ、意見を聞くことができるということを定めております。

2ページのほうに移っていただいて、第8条では、この委員会の庶務につきましては、教育委員会教育総務課が担うことを規定しております。

また、第9条では、その他として、委員会の運営に関し、必要な事項は別に定めるということを規定しております。

以上、簡単ではございますが、設置要綱の説明とさせていただきます。

## 次第

(足立教育総務課長)

### 4 委員委嘱書の交付

それでは、続きまして、4番の委員委嘱書の交付という項に移らせていただきます。

本来であれば、委員の皆様お一人お一人に教育長から委嘱書を交付させていただくべきところですが、新型コロナウイルス感染症予防対策の観点や会議時間の都合から、机上配付とさせていただきます。大変失礼なこととは存じますが、御容赦のほどよろしくお願い申し上げます。

## 次第

(足立教育総務課長)

### 5 出席委員及び事務局職員の紹介

次に、5番の出席委員及び事務局職員の紹介をさせていただきます。それでは、資料の3ページにこの委員会の委員名簿をつけさせていただきます。名簿順に所属、お名前等、順に自己紹介いただきますようお願いいたします。

## 次第

(足立教育総務課長)

### 6 正副委員長の選出

それでは、次に移らせていただきます。次第の6番、正副委員長の選出でございます。統合検討委員会設置要綱第5条に基づき、委員長及び副委員長の選出に入ります。どのような方法で行ったらよろしいでしょうか。御意見ございますでしょうか。

(委員)

失礼いたします。委員長に兵庫教育大学大学院の川上泰彦先生を、それから、副委員長に、自治会代表で前山地区自治振興会の会長の坂根眞一さんを推薦をしたいと思いますが、皆さんどうでしょうか。

(足立教育総務課長)

ただいま、御提案がありました。いかがでしょうか。

(拍手)

(足立教育総務課長)

ありがとうございました。御異議がないものとして扱わせてよろしいでしょうか。

(異議なし)

(足立教育総務課長)

それでは、早速ではございますが、川上委員長様、坂根副委員長様、前のほうの席にお移りいただきますようお願いいたします。

それでは、早速ですけど、川上委員長様、坂根副委員長様、順に御挨拶のほうをお願いいたします。

(川上委員長)

失礼いたします。今、委員長のほうを拝命いたしました兵庫教育大学の川上と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

市島地域の小学校統合の検討委員会ということです。この後、どういうふうに議論を進めていければというふうに思っておりますが、統合する、しないというのは、恐らく地域として望ましい教育の形をどう実現するかという手段の問題だというふうに理解しております。そういう思いでぜひ議事を進めていければというふうに考えておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

(副委員長)

座って挨拶とさせていただきます。先ほど委員皆様の御推挙により、市立小学校統合検討委員会の副委員長の重責を担うことになりました前山地区自治振興会自治会代表です。今後、委員の皆様の御協力を頂きながら、精いっぱい務めさせていただきますので、どうかよろしくをお願いいたします。

本日、次第7のほうでこれまでの経緯について説明があると思います。私も、以前のこれからの教育を考えるフォーラムに参加、また、認定こども園、小学校の保護者の皆さんとの意見交換会の拝聴により、いろんな意見があることは十分承知しております。

本日の1回目から開催となる小学校統合検討委員会の中では、委員長、川上泰彦先生の助言等を受けながら、活発な議論ができ、また、雰囲気づくりも副委員長の務めかなと思いますので、重ねて御協力をお願いして、挨拶とさせていただきます。以上です。

(足立教育総務課長)

ありがとうございました。それでは、ここからは、川上委員長により議事進行をよろしくをお願いいたします。

(川上委員長)

では、よろしくをお願いいたします。冒頭、ちゃんと御挨拶の場面で申し上げるべきでした。この年頭、昨年度末から年度初め、つい最近に至るまで、現在もという話ですが、それぞれ地域がここで、こども園で大変な状況の中、この時期を迎えて、しかも、それぞれの御家庭、地域で、元の生活の状況というのを取り戻すのに、皆さんそれぞれに御尽力されているお忙しい最中にもかかわらず、こういう検討会の場に足をお運びいただいて議論ができるということを非常にありがたく感じております。どうぞよろしくをお願いいたします。

お手元の次第でいいますと、7番以降ということになるんですが、冒頭、事務局のほうより傍聴規則についての検討の案件が入ってございましたので、まず、こちらについて検討の後、次第の中身のほうに入っていきたいというふうに思います。

では、事務局から、傍聴規則の案について、御説明をお願いいたします。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

失礼します。学校統合準備係長の船越と申します。どうぞよろしくお願  
いいたします。私のほうからは、傍聴規則について御説明のほうをさせて  
いただきます。

本日、机上配付をしております丹波市市島地域市立小学校統合検討委員  
会傍聴規則を御覧ください。

まず、第1条では、この会議を傍聴するための許可について規定をして  
おり、受付簿に住所、氏名を記帳し、委員長の許可を受けなければならない  
こととしております。

第2条では、(1)から(6)まで傍聴することができない方について  
規定をしております。

第3条では、傍聴人の人数を制限することができることとしており、会  
場の収容人数や今般のコロナウイルス感染拡大防止の観点から、人数制限  
をさせていただく場合がございます。

第4条では、(1)から(4)まで傍聴される方が守っていただくこと  
を規定しており、委員長の指示に従わなければならないことといたしてお  
ります。

第5条では、この規則に違反し、会議の秩序を乱すおそれがあると認め  
られるときは、退場を命じることができることとしております。

最後に、第6条は、この規則に定めるもののほか、傍聴に必要な事項が  
ある場合は、この委員会で定めることとしております。

なお、この規則は、本日、6月30日から施行することとします。

以上、簡単ですが、私のほうから傍聴規則の説明とさせていただきます。

(川上委員長)

ありがとうございました。これ、傍聴規則、もう決まってるものではな  
いんですよね。案の状態ですね。委員の皆様方、こちらの傍聴規則案、御賛  
同いただけますでしょうか。御賛同いただける方、すみません、挙手をい  
ただければと思います。いかがでしょうか。

(賛成者挙手)

(川上委員長)

よろしいですかね。ありがとうございます。挙手いただいた方、多数と  
認めますので、この今、案としてお出しいただいた傍聴規則でもって、検  
討委員会のほうを進めてまいりたいと思います。

では、委員の皆様方、お手元の次第によりやく沿って、お話を続けてい  
ければというふうに思います。

本日予定しておりますのが大きく2点です。7と振られているこれまでの  
の経緯について、これは、これまでの経緯についての御説明を事務局より  
頂くのが1件、それから、8、質疑応答、意見交換となっております。特  
段、ここで何を決めるという、今日、何を決めるというものではありません  
ので、質疑応答、意見交換の時間をこの後、取りたいと考えております。

## 次第

### 7 これまでの経緯について

(川上委員長)

まず、これまでの経緯についてということで、再び、事務局のほうから  
御説明を頂ければと思います。よろしくお願ひします。

(藤原教育部長)

失礼いたします。教育委員会教育部長の藤原と申します。よろしくお願  
いをいたします。それでは、私のほうから、これまでの経緯について御説  
明をいたしたいというふうに思います。資料の4ページを御覧いただきた  
いと思います。

1 番の市島地域のこれからの教育を考える会の発足ということで、平成 24 年 9 月から平成 30 年 2 月まで、計 19 回の協議を行っていただいたところでございます。

次に、2 の市島地域におけるより良い教育環境の整備等についての提言のことでございます。この提言は、資料 7 ページにもありますように、平成 30 年 3 月 14 日付で市島地域のこれからの教育を考える会から丹波市教育委員会宛に提出をされました。その中で、四つの具体的方策に対する見解と三つの提言が提出をされております。

最初に、具体的方策に対する見解についてでございます。具体的方策の検討にあたっては、四つの具体的方策、一つは、小規模校ネットワーク、二つ、小中一貫教育、三つ、学校の統合、四つ、学校運営協議会について検討し、見解が示されました。

一つ目の小規模校ネットワークについてでございます。市島地域の五つの小学校が学校間、学年間で連携しながら大規模な授業と小規模な授業を複数の教師が分担して指導することは効果があり、地域の子供たちが同じカリキュラムで連携しながら学習していくことも、仲間づくりや価値観の多様化に対応できる教育にも有効であると思われま

す。しかしながら、小規模校ネットワークを導入した場合、5 校の児童の移動手段や授業の内容と回数、各小学校の授業の進度を合わせるための児童や教職員への負担が大きい上、学校の小規模化は解消されないという課題も残るため、市島地域には効果的な方策ではないという見解でございました。

次に、2 の小中一貫教育についてでございます。中 1 ギャップを解消し、9 年間を見通した連続性のある教育が可能となり、生活と学習の両面から系統的・継続的な指導が期待できます。また、小中学校の教員が交流することによって、授業の質の向上とともに、児童生徒理解においても大きな効果を生むと考えられます。

統合の有無にかかわらず、小中の連携はさらに進めるべきであり、統合の際は、同一敷地内での施設一体型小中一貫教育を目指すことが望まれます。

三つ目、学校統合についてでございます。この提言の中で、平成 35 年の時点で 5 小学校が統合した場合、360 人を超える規模となり、適正規模を大きく上回ると予想され、新校舎の建設等が必要になってきます。竹田小学校と前山小学校、吉見小学校と鴨庄小学校と三輪小学校とを統合したとしても、単学級は解消できないと思われま

す。平成 30 年度には、鴨庄小学校で複式学級ができるなど、今後、少子化がさらに進んでいくものと見込まれます。義務教育の機会均等や教育水準の維持向上を図り、市島地域の子供たちが生きる力を育むことができる学校教育を将来にわたって保障する観点から、5 小学校の統合は望ましいと考えられます。

5 ページを御覧ください。

④学校運営協議会についてでございます。学校が抱えるさまざまな課題は、保護者や地域が連携することにより、学校と地域がともに目標を共有し、一体となって学校運営に関わる学校運営協議会、コミュニティ・スクール制度は有効な手段であると考えます。この学校運営協議会を有効で効果的に活用するためには、地域の教育力の高まりや継続的に支援できる体制づくりが必要で、学校自身も情報開示し、地域の力を引き出すためのマネジメント力が必要であり、この制度を活用していくためには、十分な研究が必要です。

次に、提言でございます。3 項目挙げられています。

一つ目は、市島地域における学校の適正配置に関することです。少子化

が進行し、市島地域においても児童数の減少が予測され、集団活動を通じて互いに学び合い、高め合うことができる環境、さまざまな考え方や物の見方に触れることのできる環境を維持することは難しくなっています。

小学校は、地域の精神的支柱ともいえるべき側面を持っていますが、子供たちの学習の場としての機能を高めていくという教育を第一に考える必要がありますので、生きる力や豊かな心を育む教育環境の整備のためには、できるだけ早い時期に5小学校を統合することが望ましいとされています。

二つ目ですが、市島地域における新しい学校運営に関することです。市島地域は、丹波市の周辺部に位置し、将来にわたり活力ある地域を維持・向上していくためには、人口減少の克服に向けたまちづくりが不可欠で、新統合小学校にあっては、若い世代が子育てしやすく充実した教育が受けられる特色ある教育を実施する必要があります。

そこで、同一敷地内に小中一貫教育校を設置し、小学校から中学校の9年間の学びと育ちの連続性を保障した特色ある教育課程、学校行事、PTAの活性化等、より活力にあふれた学校運営が展開できる環境を作ること、市島としても地域の文化、人のつながり、豊かな自然を生かしたまちの魅力の一つとして地域外から好影響が期待できます。

また、市島地域の小学校は、開校以来、地域に支えられ、地域とともに子供たちの教育に責任を持って歩んできた。統合校では、現在も取り組まれている地域の教育資源を活用したたんばふるさと学を継承し、一つの小学校区にとどまらず、地域全体の良い部分を学んで、地域とともに歩むことを学校の特色とした学校運営を行うことが大切であります。

三つ目です。市島地域における教育力の向上に関することです。市島地域の住民の、地域の子供は地域で育てたいという願いは強く、学校と地域が連携することによって、さまざまな課題解決に向かっていくことは想像に難しくありません。これまで市島のそれぞれの地域は、学校と深く関わり、地域と学校はともに関係し合っ、信頼関係を築いてきました。これまでの校区単位の地域活動を大切にしつつ、地域住民一人一人が関心と自覚を高め、市島地域全体で新しい学校を核とした特色ある地域活動を展開していくことが重要であります。

今回の学校適正規模・適正配置によって、特色ある学校づくりを進めることが新たな地域づくりの創造となり、市島地域全体の活性化につながると期待しますということで、まとめられております。

詳しい内容については、資料7ページから10ページに提言がございますので、御覧いただきたいというように思います。

次に、資料6ページを御覧ください。

3の市島地域のこれからの教育を考えるフォーラムの開催についてでございます。昨年10月5日にこの会場で開催をし、提言内容や青垣小学校の統合事例の報告や意見交換を行いました。主な意見は、11ページから14ページに掲載しております。

次に4、市島地域での保護者との意見交換会ということで、昨年12月に両認定こども園で、今年1月にこの会場で実施させていただきました。主な意見は、15ページから17ページに掲載しております。

そして、フォーラムや保護者との意見交換会での統合に賛成、反対だけでなく、協議の場を設けることへの意見等を踏まえ、今年4月に丹波市市島地域市立小学校統合検討委員会設置要綱を定め、本日の第1回統合検討委員会の開催となったものでございます。

以上で、これまでの経緯といたします。

(川上委員長)

続けて、よろしくお願ひします。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

失礼します。教育総務課学校統合準備係長の船越です。続きまして、私のほうから、18ページ以降の資料について簡単に御説明申し上げます。18ページを御覧ください。

このページでは、丹波市内の小学校区ごとの人口を年齢別に表したものになります。なお、令和2年3月31日時点の住民基本台帳をもとに作成をしております、特別支援学校に通われているお子様や区域外就学のお子様がおられる場合は、実際の学年の人数と合わない場合がございますので、御了承ください。

この表については、10人未満の学年や年齢は赤で、10人未満で、かつ、複式学級、または複式学級の可能性がある年齢は青で表示をさせていただいています。市島地域につきましては、最下段の5小学校ということになりますが、現在、鴨庄小学校では、3年・4年生、5・6年生が複式学級となっていることが分かるかと思えます。

就学前の年齢を見ますと、前山小学校区のゼロ歳から3歳児の4学年で10人未満で、かつ、複式学級の可能性がある人数となっています。

また、鴨庄小学校区は、複式学級の可能性がなくなる年齢はあるものの、依然として10人未満の状態が続きまして、ゼロ歳児に至っては、現在のところ1人という状況になっております。

次に、19ページを御覧ください。

こちらは、複式学級とはどういった場合に編制されるのかを表した表になります。複式学級につきましては、隣り合う二つの学年の児童の合計数によって複式学級が編制されますが、1年生を含む場合は8人以下、それ以外の学年は10人以下となった場合に複式学級となります。

次に、20ページを御覧ください。

こちらは、文科省の公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きから、学校の小規模化による主なメリット・デメリットの一部を掲載したものになります。「一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導がしやすい」や、「さまざまな発想において一人一人がリーダーを務める機会が多くなる」、また、「地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい」などといったメリットがある一方で、「クラス会が全部または一部の学年でできない」や、「男女比の偏りが生じやすい」、「児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる」などのデメリットがあるとされています。

このほかにも、多くのメリットやデメリットがあることから、この後の意見交換会などの一つの検討材料として御覧いただければと思います。

以上、18ページ以降の資料の説明とさせていただきます。

(川上委員長)

ありがとうございました。事務局からのこれまでの経緯等についての説明というのは以上でよろしいでしょうか。

次第

## 8 質疑応答、意見交換

(川上委員長)

では、これに関連してでもいいですし、関連しなくてもいいと考えております。意見交換、質疑の場を取りたいと思っております。この際、ちょっと委員の皆様方、ぜひ、一つ、胸にとどめ置いて意見交換に臨んでいただければという点について、ちょっとお話をさせていただきます。

先ほど、御挨拶の際に申し上げました統合する、しないというのは、あくまで手段だということについての、ぜひ、御了解を頂きたいというふうに思っております。学校を統合する、しないというのは、周辺の技術的なものだったりとか、社会の状況だったりとかにかなり左右されるものだと

思います。

遙か昔ですよ、もっと道路事情が悪かったときの学校規模と統廃合、学校をどう置くかという関係、道路が便利になることで、通学がしやすくなって、学校をどの範囲で置くかという考え方も、当然、変わってまいりました。似たような技術革新というのが、まさに今、通信の世界で起きているのかなというふうに思います。この3か月のコロナ禍で、通信技術を駆使した学校教育の支援というのもさまざまな形で各学校、行ってまいりました。

一方で、学び方も変化してるわけですね。皆さんがきちんと座って、一方的に先生が教え込む学校の形から、なるべく子供たちの意見を大事にしながら対話をしていきましょうとか、主体性を持ちましょうというような学びの姿に変わっていくということもありますし、一方で、価値観ですね、保護者さん、地域の方々の価値観というのも多様化してきたと。

結果、何が起きるかという、例えば、小さな規模できずなを大事にした教育がいいと思う方もいれば、その濃過ぎるつながりは、きずなというよりは、しがらみだと、もっと個人の自由のあるところで学びたいと思う方も一方で出てくるでしょう。それから、丁寧に底上げをしていく教育こそが大事だと思う方もいらっしゃるでしょうし、競争的な環境で卓越した能力をつけていくことが大切だというふうに思われる方も当然いらっしゃるでしょうと。

何を申し上げたいかという、だから、どちらの形がいいというとか、どちらの形だから今後の教育はこうなるという話は、なかなか一筋縄ではいかないということだけをまず御理解いただけるといいなというふうに思います。

結局、何が言いたいんだと思っている方、いらっしゃるかもしれませんが、何を申し上げたいか。市島地域で子供たちをどう育てたいのか、市島地域の学校はどうあってほしいのかという思いとか願いみたいなものを、まずとても大事にしてほしいということです。それを達成するための手段として、学校はどうあるべきかということを考えると、この物の考え方の順番が非常に大事だと思っています。いきなり統合すべきとか、すべきでないという議論にいきなり届いてしまうと、それを通じて何を達成したいのかと、市島の子供たちをどうしたいのかと、市島の地域づくりをどうしていきたいのかという話は、どうしてもかすれてしまうわけですね。

なので、ぜひ、この後、また議論が詰まっていったら、そうも言っていられなくなるかもしれないんですが、まず、この段階で、私は統合に賛成であるとか、私は統合に反対であるというところから議論を始めるというのは、どうも視野を狭くしてしまうので、なるべく避けていただきたいというふうに思っています。市島の子供をこんなふうに育てたい、市島地域の学校はこうあってほしいという願い、思いというのを、ぜひ語っていただいて、我々、委員会としては、そのくみ取った思い、願いをどういう形で実現するのが可能なのかというところで初めて学校の形をどうするかという議論に展開するものだと思っています。

なので、ぜひ、少し大所高所からお話を頂きたいと思っております。市島地域の地域づくりはどうしていくのか、市島で子供たちをどう育てていきたいのか、望ましい学校の姿は何なのか、学校と地域の関係はどうあったらいいのかというようなお話を、ぜひ、保護者の方々が自分の子供はこういう環境で育てていきたいとか、こういう育ちがあるといいなとか、地域の方にとっては、学校というのはこういう立場であってほしいという思いがあるでしょう。ぜひ、その辺の話をしていただきたいなというふうに思います。

後で計算をしていただければお分かりになると思うんですが、18ペー

ジの一番下ですね。市島地域の子供たちの数が乗っかっています。今、各学年ごとと中学校計、小学校計、就学前計というふうになってるんですけど、これ、今ちょっと計算をしました。3歳刻みで子供の数を計算していくとどうなるか。中1、中2、中3で216人、これは書いてあるとおりですね。小4、小5、小6で190人。小1、小2、小3で207人です。ここはちょっと逆転しているんですが、次、3歳、4歳、5歳を合わせると168人です。ゼロ歳、1歳、2歳を足すと150人です。かなりなペースで少子化が進むということが、3歳刻みで合計をして並べるだけでも何となく分かるという中で、地域づくりをどうしていきたいのか、子供たちをどう育てていきたいのかということについて、ぜひ、この場では御意見を頂ければというふうに思っております。

これ、別に皆さんの思考を束縛するものでもなく、ただの委員長からのお願いでしかないんですが、できれば、こういう形で、まず最初に、何か統合がどうだという話ではなくて、まず、何を、どういう価値をとか、どういう地域の将来像、どういう子供たちの学びの環境というのを考えた中で、その思いを皆さんにお話しただければなということをお思っております。これは委員長からのお願いです。

すみません、冒頭、長々とお話ししてしまいましたが、ぜひ、今のこの前の事務局からの説明についての質疑応答となっておりますから、事務局からのこれまでの経緯の御説明に対しての質疑応答の部分も当然あるかと思えますし、意見交換の部分については、皆さんの市島地域の小学校に持ってらっしゃる思い、地域に対する思いというものを少しお話しただければというふうに思っております。特段、それ以上の縛りを今のところ想定しておりませんので、お話しただけの方、ぜひ、挙手の上、御発言いただければというふうに考えております。いかがでございましょうか。

発言をしにくくしてしまったでしょうか。すみません。もう軽く、軽くという言い方もあれですけど、思うところを、今回、この委員をさせていただくので、実は、事務局のほうにお願いをしまして、五つの小学校を回らせていただきました。こういう地域で、こういう学校がこんなふうにあるんだなというのを見ることができました。

ただ、それで見れたのは、やはり、建物がこうで、こういう場所にあって、こういう先生が働いてて、こういう子供たちがいるっていうのは見えるんですけど、親御さんたちの思いであったりとか、地域の方々が学校に対してどういう思いでいらっしゃるのかとかっていうのは、やはり施設を見せていただく中では、なかなか分からないところではありますので、皆さんがどういうことをお考えかというのを、少し教えていただければなというふうに思っております。

順次お話しいただいてもいいですか。せっかくの機会ですので。どうしましようか、マイクを少し事務局のほうで回していただきながら、まとまっていなければ、まとまっていないなりに結構ですし、一言、二言でも構いませんので、少し今、考えてらっしゃるようなことをお話しただければなというふうに思います。

前方からでよろしいですか。お願いします。

(委員)

統合とかそういうこと抜きにして、自分としては、竹田、私は竹田地区の一応、代表として来たんで、学校がどうこうは思わないんですけども、竹田として、店屋もない、遊ぶところもない、それから、学校もなくなる、こういうことになってしまうと、それこそ、若い人が全然寄りつかんようになってしもうて、何かほんまの過疎になってしまうような気がして、学校は、今、結構、竹田小学校は、まだ88人か、結構おるほうなんで、行事としてはいろいろとやっておりますし、振興会としても、行事に参加し

たり、みんなを呼んだり、学校の子を呼んでしてるんですけど、何か広域になった場合は、ちょっとそういうことができにくくなるんじゃないかなという気もするんです。また後で考えておきます。

(川上委員長)

ありがとうございます。

(委員)

失礼します。本当に難しく、地域づくりと学校ということで、両立ができれば本当は一番いいんかと思うんですけども、小学校の校庭から子供の声が聞こえなくなるということが、あまり地域が活性化すると思えないところがありまして、そうかといって、子供、学校での、生徒と一緒に切磋琢磨して伸びていくには、あまり少なかったら、それもどうかと、このように考えるところもあります。

(川上委員長)

ありがとうございます。

(委員)

失礼します。このコラムにありますように、鴨庄小学校、一番下のほうにありまして、先ほど委員長さん見られたということで、景色とか見てもらったと思うんですが、非常にのどかなところで伸び伸びと、小さいながら元気にやっております。行き帰りの挨拶もしっかりしてくれますし、非常にたのもしいなというふうに思っております。末は博士か大臣かというような期待も持っておるんですが、さておいて、学校統合ありなしの問題じゃなくて、私は人間を作っていたきたいという気がするんです。

人それぞれ考え方あるんですが、やっぱり地域ありき、学校ありき、子供ありき、人間が住んでいるということになるんですが、いつでしたか、ちょっと話したことがあるんですが、例えば、子供が大人に、お父さん、お母さん、心ってどこにあるんですかと、どこにも書いてないよという質問をしました。みんながそのとき、どう答えられるのかなというふうに私は思うんですが、委員長先生、どうですか。

(川上委員長)

そうですね、ここ派とここ派（頭と胸を指しながら）とあるような気がします。

(委員)

そうですね。だから、私は、端的に思うんですが、あなたの頭の先から指の先から足の先まであるんですよというふうに教えたいなと思ってます。それは、今現在、世の中がこういう人間を要求している、確かに勉強ができて、学校が、学力があって、それはもちろんですが、それとは余分に、地域としては、そういう子育ての応援ができればなというふうに感じております。

今、奉仕の精神とかきずなとか言われますが、やっぱりところどころ欠けているところがありますので、1人の人間としてなってもらうように、そういう人を作るよう、地域としても何とか後押しできればというふうに考えております。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。

(委員)

失礼します。委員長先生、私は、この提言を出した張本人なんです。ですから、なかなか発言しにくいと思うんですけども、だけど、今、この市島地域の竹田から三輪までたくさんあるんですけども、その子供たちは本当に、その地域の中で、本当に地域の人と一緒にあって、今、人数は少ないけども、いい子たちばかりで、学校の先生たちも一生懸命やっておられるし、地域の者も自分のところのまちの子供に対しての思いを出していっ

ておりますので、いい、今、そういう環境であります。

そういった、私、この立場ですので、あまりちょっと、今日は控えておきますが、そのように思っております。

(川上委員長)

ありがとうございます。

(委員)

失礼します。保護者にとりましては、子供の教育環境というのは、とても気になるところでありますし、関心の高いことだと思います。その充実に向けた検討が進められるということは、とてもうれしいことでもありますし、そのために保護者ができるということがあるのであれば、努力は惜しまないということで、ここに参加させていただきます。

先ほど川上先生がおっしゃられたことに、少しずれてしまうかもしれないんですけども、そういう議論をするということにあたって、今、自治会の代表の方々がおっしゃられたところと関連するんですが、小学校が統合するということが、地域社会の崩壊につながるんだということが、まず出てきてしまいますと、やっぱり次代を担う子供たちのことが後回しにされてしまうのかなというふうに、保護者としては感じて、少し残念に思うところです。

ただ、私たちの子育て世代も、当然、地域社会を担う一員であることには変わりはないわけですし、地域社会の崩壊を防ぐためにどうすればよいかというような議論には、参加する責務があります。それとともに、これまで地域に育てていただいたという思いは当然持っているわけですし、今後その力は借りたいというふうに思うところでもありますので、そこを何とか、環境をどう整備するかという議論と、地域社会の維持発展に向けた議論というのは、少し切り離して、みんなで考えるべきではないかなというふうに思います。

保護者が統合問題を考えるにあたっては、やはり今の小学校とどう変わるのかということが見えるということが重要だと思います。総合的に考えて、今よりもどう変わるのか、どう充実していくのか。また、疑問や不安等が少しでも払拭されていくのかどうかということだと思います。

現在、五つの小学校がありまして、それぞれの学校教育目標のもとに教育活動が展開されていると思いますが、やはりそれぞれで蓄積されている良さ、ノウハウというものがどう合わさって、どう充実していくのか。特に、少人数の良さというものを今後も引き継がれていくのかどうか、どう生かされていくのかといったところが、保護者としては非常に気になることです。

また、社会の変化というふうなこともありましたように、例えば、教育では、今後一層、特別支援教育であるとか不登校支援というのは、ますます重要になる場所であり、そういったところがどのように充実されていくのかというところは、知りたいところだと思います。

具体的には、もっと、どこにどんな学校が造られるのかとか、通学はどうなるのかとか、アフタースクールがどうだといったようなことは、保護者としては知りたいと思う点だと思うんですけども、そういったところは、例えば、青垣小学校、あるいは、山南町の中学校の取組をもとにしながら、誰がどこでどのように議論を行っていったらいいかというふうな見通しをお示しいただけたらいいなというふうに思います。

最後に、これまで議論がされてきた中で、鴨庄小学校区の総意というのは、やはり軽視できるものではないなというふうに保護者としては思います。早かれ遅かれそれぞれの小学校区が直面する問題でありますし、我々の小学校区はまだだからとか、我々の小学校区には関係ないといったよう

な、やはり狭い範囲での議論に収まるものではないというふうに思いますので、やはり先ほどおっしゃられたように、それぞれの地域の良さを、今こそ合わせてもっと良いものというふうになっていくような、全体を見渡した中での子供たちのことを考えていただいた方向性というものを検討していければいいなというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

(川上委員長)

ありがとうございます。

(委員)

失礼します。すみません、まとまっていないんですけども、やっぱり学校は、子供たちが楽しいと思って行ってくれるところであってほしいなと思っています。やっぱり、それぞれかもしれないですけど、友達と意見を交わして学び合ったりとか、休み時間に友達と関わって、楽しいなと思って過ごせるような学校であってほしいと思っています。休み時間にドッジボールしようって思っても、仲間が集まらないようでは、ちょっと寂しいなと感じるところがあります。

その規模によって、メリット、デメリットというところはたくさんあるし、十分考えていかなければいけないところだとは思いますが、自分の子供だけじゃなくて、子供が親になって孫ができたときとか、先々のことまでしっかり考えていかなければいけないなということを感じています。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。

(委員)

失礼します。まとまっていないんですけど、私は、子供には毎日楽しく、仲良く学校で過ごせるような学校がいいと思っています。また、保護者としては、保護者間も仲良く、子供たちの環境、良い環境を育てられるような保護者間でありたいなと思っています。また学習面でも、分かりやすく授業ができるような学校であってほしいなと思っています。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。

(委員)

失礼します。先ほどの意見の中でもありましたように、私も地域の問題と、子供の教育の問題は、ちょっと一旦、切り離れたほうが良いかなと考えております。学校と聞いて一番最初に思うのは、子供の教育が第一というふうに思っております。

それと、ちょっと変わるんですけど、質疑応答ということで、資料のほうの小中一貫教育についてというところを見させていただいて、個人的にはすごくいいんじゃないかなと思います。ちょっと気になったのが、青垣地域や山南の既に統合もされたところでも、そういった意見なんかはあったのかどうかという、ちょっと情報があれば、教えてもらえたらうれしいなと思いました。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。今の件、事務局、いかがですか。

(足立教育総務課長)

失礼します。教育総務課の足立です。今、一つ、山南のほうは、中学校の統合を行っておりますので、小中一貫ということは、ちょっと置かせていただいて、青垣地域のほうは、平成29年に統合して、青垣小学校になってます。この地域の教育を考える会から出ている意見では、小中一貫校というような提言もあって、統合準備委員会の中で、同一敷地の小中一貫校ということも検討されましたが、結果的に、現在の旧の佐治小学校の位置に立って、連係型ということで、今はスタートを切っているというこ

るで、議論のほうはされておりました。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。

(委員)

先ほどからの皆様の意見で出てる地域社会についてなんですけど、確かに統合されると、地域社会が壊れていくんじゃないか。そうなったときに、今現状の子供たちが大きくなったときに、中学校、高校を経て、その後、ここに戻って就職するということはあるのかなという、そうしない限りは、この地域社会が活性化していくことはないのかなと思ったり、あと、切り離して考えなければいけないという意見があったのも、確かに大事だと思うんです。外部から、Iターン、Uターンという形で入ってこられる地域の人というので地域が活性化していくというのも考えたら、やっぱり切り離して考えるのも必要かなと思います。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。

(委員)

私も特に意見がまとまってるわけではないですけども、子供の親としまして、今の前山小学校でありますと、10人そこそこのクラスばかりで、ちょっと性別の偏りがある学年があったり、また、少ない中での友達だったら、孤立する子がおったり、仲いい、仲悪い、そんなんも、孤立してるや何やいうたら、すぐあの子やって特定できるような環境なので、やっぱり自分の子供なんかはサッカーをしているわけなんですけど、自分の学校ではあまり仲のいいグループが固まっても、そういうサッカーとか、そうやってほかの地域の子と一緒にいる場であれば、仲良くできたりという、友達の輪が広がるというか、そういうメリットは統合したらあるかなとは思いますが。

あと、統合したところで、小規模校であることには変わりないと思いますので、統合ありきの話で、そういう意見になってしまうんですが、私は大きい学校になったほうがいいかなと思います。すみません、まとまってない話で。失礼します。

(川上委員長)

ありがとうございます。

(委員)

失礼します。統合どうこうという話でいうと、やっぱり鴨庄小学校としては、やはり今、めっちゃ少なくて、複式になったりしてて、やっぱり統合するかせんかみたいな目で見たんです。そこら辺を考えていくと、やっぱり自分の子供だけの話じゃなくなってくるんで、ずっと住んでいくことを考えると、自分の子供がまた子供を産んだときに、そのときどうなっているかというのがすごく気になるところで、それが、どうなってるかみたいなのがやっぱり気になります。

正直、僕も、したらいいんか、せんほうがいいんかというのは、全然分からなくて、子供が笑って学校へ行ってる環境やったら、どうなってもいいかなとは、僕としては思っています。まとまってないですけど。

(川上委員長)

ありがとうございます。

(委員)

統合とかなった場合の子供の始業の時間とか送り迎えとか、やっぱり親の目線になってしまいますけど、始業の時間に合わせた家を出る時間とか子供の時間とか、バスとか出るとか出ないのかとか、やっぱりこっちも、子供が勉強してほしい、それはあるけど、してもらうのは、バスで連れていかなあかんとか、そういうのもありますし、こっちの都合もやっぱり、

もちろん勉強を頑張っしてほしいんやけど、時間とか、それがやっぱりこっちの仕事の始業の時間とか、その都合もありますし、やっぱりどこかで僕、家族の都合を初めに置いて、それから学校へというのが頭に入って、それがどうしても入るもんやから、バスでどこに、例えば、僕がちょっと勉強不足で、統合になった場合、どこに建物ができるかとか、そういうのも気になるところもあって、やっぱり送り迎えが気になって。

もしバスになった場合、何日はここでバス、来週はここでバス、再来週はここになりますとか、また時間がばらばらになると、なおさら送り迎えになると、バスの利用がなおさら難しくなるとか、やっぱり、ほんなら一番初めは、A地点でバスが始まると、僕は都合がいいけど、違う地域の人が、自分のところの時間と、やっぱり始業とか、8時半とか8時とかあるやろうし、やっぱりバスの利用ってありがたいけど、時間とか、やっぱり小学校であれ保育園であれ中学校であれ、やっぱり時間も決まってると思うんで、それを僕らに合わせて、めちゃくちゃ早く子供を連れていっていいのかとか、やっぱりこっちの都合で全て合わせてくれるんやったら、すごく助かるんですけど、どこかで親の、僕の都合とかがやっぱり入ってしまう、育て方がちょっと気になるところです。

(川上委員長)

ありがとうございます。今頂いたみたいに、多分、親目線で見たときの通わせ方の話、これも非常に大事な部分であると思いますので、ありがとうございます。引き続きお願いします。

(委員)

資料も見せていただいて、ちょっと、まず、メリットとデメリットがはっきりしていないのを感じています。メリット、デメリットの中で、子供にとってのメリット、デメリット、保護者にとってのメリット、デメリット、あと、先生にとってのメリット、デメリットですね。あと、地域にとってのメリット、デメリット、それから、関係するかどうか分かりませんが、行政にとってのメリット、デメリットがまとまってない。

だから、こういう統合をすることによって、学習面ではこういうメリットがある、デメリットがあるですとかいうのが全然まとまってないなというふうに思うんです。私自身は、学習は多くの人の中で、学習というか教育は、小規模のほうが、先生が親身になって教えていただけるのかなというふうに思うんですけど、逆に、人間性を育てるという面では、やはり多くの生徒がいたほうが、いろんな情報交換ができるかなと思ってるんです。

ところが、現実面で考えると、小学校1年生のほうが、学校で勉強が終わった後に、終わって、友達と遊ぼうというふうになったときに、私、三輪なんですけど、三輪の1年生の子が、竹田まで行って遊べるかという遊べないですよ。そこにバスが常に行き来してるのであれば、バスに乗って送り迎えとかいうのができるかもしれませんけど、そこにバスで1回利用したら有料やとか、あるいは保護者が送り迎えせなあかんようになると、やっぱり夫婦共働きが多くなっている時代の中で、現実的ではない。だから、その辺のところのメリット、デメリット、関わる人間というのが、保護者の視点、先生の視点、子供の視点、地域の視点、当然、地域としても子供がいなくなるのは小規模の学校として寂しいと思うんですよ。

福知山のところの話がちょっとどこかに載ってたんですけど、私がちょっと聞いたのは、福知山で統合された中で、廃校になった学校ですね。この廃校になった場所をどうやって維持するんかということで、結局、地域から買い取って、そこに消防団の詰所があったりですとか、何か会議室になったりだとかするんですけど、規模が大きいから大変。あるいは、草刈りしないといけないというふうに。

じゃあ、更地にしてしまえばといたら、更地になったら、子供は遊ぶところがないですね。私の子供も、やっぱり家から10分ぐらいで学校があったから、遊べるんですよ。わずか、学校終わって、すぐ10分で友達と遊べる場所があるのに、それで更地になって、例えば、三輪小学校から竹田の場所に学校が統一になるというふうになったときに、じゃあ、竹田まで、1年生の子はどうやって行くんや、3年生になったら自転車だけど、本当に行けるのっていうふうなところがあると思うんです。

だから、そんなところのメリット、デメリットの現実性というのがはっきりしてないと。デメリットがある中で、それをどうメリットに変えていくのか。じゃあ、小さい、なくなった、廃校になった、廃校というか統合になって使わなくなった小学校が、例えば公園になるのかとか、塾の代わりに場所というんですか、そういうような場所になるとか、それもまた、でも、各自治会の人や、学校の土地の負担ですとか、建物の維持、負担いうたら、それはたまらんわけですね。あれだけの建物を維持していくというたら、10年、20年とね。

そしたら、結局、やめようかという話になると、ほんなら、要は、統合した場所になった学校、子供はいいですよ、そこは発展しますけど、なくなったところは、もう衰退すると思います。遊ぶ場所がないとかね。というふうなところがちょっと気になる場所ですかね。

別に統合というか、反対でも賛成でもないんですけど、もし、小中という話は、また次の話だと思うんです。中学校になると、要は、私も三輪で小学校を超えて中学校のほうに行きましたけど、大半は自転車で移動して遊びに行きますし、遊ぶ時間も、夜の7時まで遊ぶのいいかどうか分かりませんが、できますけども、やっぱり1年生の子が夜の7時まで遊ぶわけには、ちょっといかんですよ。それだけの移動もできないし。やっぱりその辺のところ、バスが縦横無尽に走り回れるとか、いつでも、1時間に1本、30分に1本あるんですというんやったら、子供、親としても竹田のほうへ行ってきかないなというようなことを言えますけど、ちょっとその辺が議論をずっとされて、いろんな意見が出てますけど、メリット、デメリット、それぞれの視点でのところが、ちょっと分からないかなというふうに思いました。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。御指摘のとおり、メリット、デメリットって、正直、はっきりしないものだったりとか、工夫で結構カバーできる場所もあるわけですね。大きくなった後に、小さい学習集団のメリットを出したいなと思ったら、そういう工夫もできますし。先ほど申し上げたように技術の進歩もあって、小さい学校を維持しながら、何か、大人数で学び合うようなことっていうのをしようと思ったら、それもできるわけですよ。

そういう意味でいうと、ここでまとまってるメリット、デメリットって結構、やり方次第で何とでもなってしまう部分もある。どうもならん部分も、もちろん残りはしますけど、だからこそ余計に、委員の皆さん方が何を大事にしたいかというのが必要になるわけですね。それを最大限残し得る選択肢というのを考えていこうというのが、多分、着想としては大事なので、だからこそで思い願いの部分ですよ、こういう子育て環境であってほしいという話を頂いているということかなというふうに思っています。すみません、ちょっと、一々挟むと長くなってしまっ、ごめんなさい。ありがとうございます。お願いします。

(委員)

失礼します。まとまってなくて聞き苦しいと思うんですけども、今ちょっと、ずっと、この春に中学校を卒業した子供がいるんですけども、小学校とまたちょっと関係ない話になってしまうのかもしれないですけど、

中学校で今、学校に行きづらい子がすごく増えてるような印象なんです。それとまた、小学校でも行けてない子もあったみたいで、親といたしましては、統合するかどうかとか、何がどうしたいかということで言えば、とにかく子供がどのお子さんも学校に行ける環境があったらいいなというのは、すごく考えています。

例えば、一見、少人数で少ない人数で、子供たち、仲良くやっているようには見えても、やっぱりそこは、少ないと気が合う、合わない、どうしても学校の先生の前では仲良くできるけど、放課後まで一緒に遊ぶというような仲の良さというほど友達が見つけれない子も中にはいるわけで、そういう子からしたら、なるべくたくさん、統合とかになった場合に、一緒にたくさんの子の中からも気が合う友達が見つかるというメリットもあるのかなと思ったり、ただ、中学校に、今、統合してない状態で、中学校に行ってから来れなくなっている子も現実としてたくさんいるみたいなので、何がいいのかというのは、ちょっと全然、分からないんですけど、とにかく親としての願いは、誰もが学校に行けるような環境が整ったら望ましいなと思います。失礼します。

(川上委員長)

ありがとうございました。

(委員)

たくさん意見を聞かせていただいて、僕個人の意見になると思うんですけど、年々、人数が減っているのは、地域のいろんな行事でありましたり、している中でも、やはり年々、人数が減っているのは身にしみて分かってます。そんな中でも、やっぱり地域に帰ってこられる方というの、ちよくちよくはいるんですけど、大抵の方は、もう外に出られて、こっこの市島のほうに帰ってこないというのが現実のところであるんです。

なぜ帰ってこないのかなというの、いろんな方の話を聞いてて、やっぱり学校に居づらいとか、そういう経験をした方は、恐らく懂れていて、そっちのほうに帰ってこないんじゃないかなというのが一つ思いました。自分の子が、もし今後、ここで育ってもらうなら、人と人とのつながりというのが、一つ大きい課題ではないかなと、親として強く思います。野球とかサッカーされてる方が中学校に上がったら、やっぱりほかの交流がある子供たちといきなり仲良くする子供もいれば、初めてやって、仲良くしとる輪に入れない子供たちというのもあると思うので、そういった面では、やっぱりたくさんの子供たちと一緒に勉強して、一緒に成長していくと、先ほど言っていた話にはなりますが、自分に合った友達と会う機会が大きくなることで、言いやすい環境ができて、地元に残る子も増えるのかどうかというところにもつながると思うので、そういったことも考えられるのではないかなと思います。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございました。お願いします。

(委員)

私も意見がまとまっていないんですけども、私としては、やはり子供は学校の中で毎日元気で楽しく過ごしてほしいですし、伸び伸びと育ててほしいと思っています。私自身の子供も鴨庄小学校に登校しているんですが、やはり鴨庄小学校は少し、ちょっと伸び伸びとし過ぎているのかなとも思うので、もう少し大勢の中で人にもまれながら過ごしていてもいいのかなと思います。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございました。お願いします。

(委員)

よろしくお願いします。うちの子は三輪小学校に通っているんですけれ

ども、伸び伸びと地域の方に見守られながら、先生方にもすごくフォローしていただけるし、伸び伸びと育っていったら感じるんですけども、うちの子がどうかではないんですけども、やはり大勢の中で伸びる子もいると思うんです。やっぱり、あの子より上手になりたいとか、そういうのもやっぱりあると思います。

先ほど言われた、やっぱり教育は少人数のほうが良い、良いけれども、人間性を育てるには、やっぱりある程度人数がいたほうが良いという意見がありました。それは、私もすごく賛成で、やっぱり大人になるにつれてやっぱりいろんな人と関わる機会もありますし、その中で自分をどう置かみたいなところを育てるのも、やっぱり学校の役目というか、集団の中で育つということではあるのかなというのと思うんです。

実際、人数が少ないと、気が合う、合わないというのもあると思いますし、逃げ場がなくなるといって、居づらくなってしまったら、じゃあ、どこにいたらいいんだろうみたいな子も絶対出てくると、出てきていると思います。そういう子のためにも、やっぱりある程度、人数はその子が受け入れられる場所というのが、ある程度、やっぱり人数がいたほうが良いと思います。

それと、鴨庄ですね、人数が少なくて、よその地域から鴨庄に来られた方がいらっちゃって、こんなに人数が少ないと思わなかったって、自分の子供が小学校に行くころには、もう本当に5人以下とかになって、そんなんやったら、鴨庄に来いへんかったら良かったみたいなことを言われる方もいました。そういう方もおられるので、どこからでも通えるという状況になれば、逆に、どこでも住めるじゃないけれども、というのもあるのかなという気はします。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございました。お願いします。

(委員)

失礼します。委員長が言われた市島でどのように育てていきたいか。うちも3人子供がいて、一番下の子が、次、小学校に来年上がるんですけど、やっぱり単純に、大勢のいろいろな意見がある子供たちの中で育ってほしいなというのが正直な意見です。やっぱりそう考えると、統合がいいのかなとも思うんですけど、うち、3人子供がいて、もう2人は高校も卒業して、就職してます。吉見小学校でお世話になって、今、中学校、高校と上がって行って、小学校のときも20人前後の人数だったんですけど、そういう中で別に、特に問題もなしにすくすくと育って、大人になってきてくれているというの現実でありますし、けど、またそういうクラス替えできるほどの小学校になれば、また違った、もっともまれた中でいい道がいろいろと選択できたのかなとも、いろいろ思います。けど、本当に考えがまとまっていなくて申し訳ないんですけど、一個人の親としては、やはり統合して、多くの子供たちの中でもまれてほしいというのが正直な意見です。

すみません、僕の勉強不足で申し訳ないんですけど、考える会さんが提言を出している中で、もう統合というところまでする中で、また協議することになった経緯がちょっと分かりにくいというか、一旦、しようかというのを待ってとなった、そのところの話を、詳しく聞きたいなと思うんですけど。

(川上委員長)

この辺については、事務局から補足できますか。

(足立教育総務課長)

失礼します。先ほど言われました平成30年3月に提言が出されて、また今、こうした議論している、その辺の経過なんですけども、確かに提言

を頂いて、五つの小学校の統合が望ましいということ頂きました。その中で、昨年度、フォーラムを開催させていただいた中で、まだ賛否両論あるという中、そしてまた、昨年、それを受けて、認定こども園の保護者、あるいは小学校PTAの保護者の方と3回にわたって意見交換会をさせていただきました。その中でも、一旦、そのまま統合準備ということじゃなしに、統合について考える機会、こういった検討の場を設けるということが望ましいんじゃないかということで、提言は提言として重く受け止めてるんですけど、いま一度、統合について考えていくという場を設けるということで、この検討委員会を設けさせていただいたということでございます。少し分かりにくいかも知れませんが、そういった経過の中で検討委員会を開催するに至ったということで御理解いただければと思います。

(川上委員長)

よろしいですか。ありがとうございました。

(委員)

どなたかの意見に続けるように言いたいんですけども、なかなかそれが難しいような感じですので、委員長の川上先生が、どんなふうに、どんな子供を育てたいんやというのを一番最初におっしゃっておいりましたので、私の考えてるところを簡単に言わせてもらいます。

私は、将来を生き生きと生きられる力をつけていきたいなと思ってます。そういうふうになると、将来のことだけを見て、今を大事にしてないのかと、こう言われるかも知れませんが、そうではなくて、今を充実する中で、そういう力をつけていきたいと思ってるんです。今の充実の中で、夢が持てて、その夢を実現させられるだけのものを持たせていきたいなと思ってます。そのためにも学校関係者、私たちはもちろん努力しますし、周りの方と手を取り合って、つながって、しっかりと子供たちを育てていきたいなと考えておりますので、こういうところで意見を聞かせてもらいながら、それをまた生かしていくということは、大変参考になるところでございます。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。お願いします。

(委員)

これまでの学校は、子供は、田舎でしたから、選んでないといいますが、そこに生まれたから、その学校に行くという。ですから、規模が大きかろうが小さかろうが、子供にとっては唯一の学校でありましたので、もちろん、統合になるかならないかは先の話なんですけども、とにかく、今通っている学校におれて良かったとか、この地域で育って良かったなというふうに子供が思うような教育をしたいなというふうに考えております。

今度は、いずれ人口的に学校を造るということになっていくと思いますので、やはりそこは、いろんな方の知恵を結集して、より良い学校にしていきたいと。そのときには、地域というのをやっぱり、市島をという、市島にある五つの学校というふうに考えないと、それぞれの地域の一つの学校というふうに考えずに、市島の地域の学校というふうにみんなで考えていくのがいいんじゃないかというふうに思っております。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。お願いします。

(委員)

本当に保護者の皆様、学校のビジョンというのを本当に真剣に考えておられるということをもっと感心をし、ありがたいなというふうに思っています。

私も立場上、いずれは吉見小学校を去るということを前提に申し上げますと、やはりどんな学校であっても、地域の皆さん、そして保護者に応援

してもらえない学校でないといけない、そのように思っています。この協議を通じて、そういったところがますます充実していくことが、一つ、私の願いであるということでございます。

それから、中身について少し触れますと、学校というところは、勉強、そして、人間関係、そういった二つの大きな要素があると思います。これは、学校の大小に反比例するように、私のほうは思っています。勉強は少ないほど丁寧に見れますが、友達は少ないほど多様性がなくなると、こういったところのバランスを考えて、学校というものは、それを補いながら校長としては運営しているようなところがございます。そういったところもバランスというものを考えていただきながら、また議論が深まればいいなというふうに思っています。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。お願いします。

(委員)

失礼いたします。今を受けて、久しぶりというたら申し訳ないんですが、保護者の方の御意見を、この会をまた再開されて、お聞きして、すごくやっぱり保護者の方の言葉って大切だなと感じました。私たちのようにもう子育てが終わっている人間にしたら、やっぱり地域を要するに考えてしまうんですけども、やっぱり保護者、今、子育てをされてる方のお言葉をもう少しお聞きして、真剣に考えさせていただかないといけないんだなということを改めて感じました。

そして、私が地域で子供たちをどう育てたいかというのは、やはり心身ともにたくましい子になってほしいなと思います。それが小さい学校であっても、大きい学校になっても、基本的には心も体もたくましい子になっていただきたいというのが、今の私の思いです。まとまってなくて申し訳ありません。

(川上委員長)

ありがとうございます。お願いします。

(委員)

こども園は、昔、少し前に保育所だったときに、市島地域には五つ保育園があって、幼稚園も三つあったんですけど、それが今、二つの認定こども園になりました。私が前にいた園も60人規模だったのに、今は150人以上園児がいます。

それで、やっぱり小さい子供さんのときは、小さな規模のほうの方が本当は望ましくて、だんだん大きな規模になっていくのが、本来望ましいんだろうなと思うんですけども、今、もうこういう状態になってきています。大勢の子供たちが、それぞれの小さな小学校に分かれていくという状況になっているので、そこで以前にはなかった良さとか、そうでないところとか、あってるかもしれないなと思うようなところがあります。

子供には、本当に、先ほどもおっしゃいましたように、健康でたくましく、そして、自分で物事を自分の力で考えていって、自分で世界を切り開いていけるような人になってほしいなというふうに考えております。

今、子育ての環境が少し前と変わってきているし、状況が、周りの市、どこでもそうですし、このコロナで、大分また変わったりもしたと思うんですけど、保護者のコンディションも変わってきているし、ちょっと前とは違った子育て観というのが、これからは要るのかなというふうに思います。

それから、地域というものの考え方のことなんですけど、前、吉見こども園にいたときは、吉見が我々の地域だった、三輪はよその地域という考え方が、価値観があったんですけど、今、吉見、鴨庄、三輪と一つの、私たちにとっては、それが私たちの地域になってしまったので、もはや、鴨

庄も三輪も私たちの地域になりました。物理的な地域という考え方と、心理的な地域という考え方と、両方あるなと思って、本当に、どこの三つの地域の方々も親しくしてくださいませし、応援してくださいませし、非常にありがたいなというふうに思っています。多くの方に見守られて、子供たちが育っているということに感謝をしているという状況です。

(川上委員長)

ありがとうございました。お願いします。

(委員)

たくさんの貴重な御意見を聞かせていただきまして、地域の方の願い、また、保護者の方の願い、また、子供たちの願い、そういった願いに寄り添いながら、学校の役割をしっかりと果たしていきたいというふうに思いました。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。お願いします。

(委員)

資料にもありましたが、鴨庄小学校、現在、丹波市の中では一番児童数が少ない小学校でございます。ですが、子供たちが、じゃあ、それだけ小さい人間なのかということ、そんなことは決してございませんで、どこの学校にも負けない元気、やる気、根気の鴨庄小っ子を預かっているというふうに自負をしております。

冒頭で川上委員長がおっしゃったように、やっぱり統合だとか存続だとかいう前に、やっぱりどんな子供を育てていきたいのか。今、目の前に我々が預かせてもらっているお子さんが、10年先、20年先、30年先、そして、これからまた地域に戻ってきて、これから学校へ入ってくる子供たちのことを、どれだけ先のことを見通して保障してやれるのかということまでを考えて、やっぱり議論すべきだなと。今、目の前のことだけを見ていて論ずるのは、気が早いというか、早急過ぎるなと。もっと先を見た議論がやっぱり必要だなと。

しかし、先ことは誰にも分からないわけで、このたびのコロナ禍によって、学校のあり方というものも随分、我々がイメージしていた形と大きく変わってきたように思います。オンラインでも学校が成り立つ時代になってきたと。そうなると、じゃあ、地域って何かなというところまで論じていかないと難しい話になってくるんだろうなというふうに思いますし、実際にN高校というような、ネットワークだけで成り立っている学校がもう既にあるというような、そんな状況です。

それは、これから10年、20年たったら、それがひょっとしたら普通になっているかもしれないなと、そこまで思いを致したときに、じゃあ、市島の学校はどうあるべきかということ、今、保護者の方やら地域の方々の声を、我々は、学校を預かっている、子供たちを預かっている者として真摯に受け止めて、今できることは、やっぱり我々、私が今、できることは、目の前にいる子供たちが健やかで健康で、同じことですけど、元気でたくましく育ってくれる、そんな子供たちにしていかなければならないなと。

行く行くは、私は、今の勤務の先の学校は居住地ではないので、大きなことは言えないんですが、またここに帰ってきてくれる子供たち、いつかここが、自分が生まれ育った地域だよという、その地域を、じゃあ、鴨庄地域に子供がいるのか、市島地域なのか、丹波市なのか、あるいは、兵庫なのか、日本なのか、いろんな見方ができると思うんですが、そのいろんな見方がある中で、やっぱりここへという言い方しかできないんですが、ここに帰ってきてくれるような子供たちを育てたいなというふうに、今日の話、いろいろ聞かせてもらって、改めて感じました。若干、感想なよう

になってしまうんですが、お許してください。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございました。こちらからの急な振りにもかかわらず、皆さん、お考え、お話しただいて、非常に、お互い参考にする部分があったのかなというふうに思っております。

先ほど来、繰り返し申し上げておりますが、だからどうだという話はもうちょっと先のことになるかと思えます。どう育てたいのかと、どういう学びをとか、どういう育ちを保障したいのかというようなところが、まずもって大事なところかなというふうに思っております。

この後、また、検討委員会の議論が進んでいくこととなりますが、今日を一つのスタート、きっかけになります。ぜひ、引き取っていただいて、御関係の方々と市島でどう子供を育てたいのかと、自分たちの子供をどう育てていきたいのか、どういう地域を作りたいのかというようなお話、少しでもする機会を持っていただければなというようなことを考えております。

第1回での意見交換としては、以上のようなことを考えておりますが、どうでしょう、最後に言っておきたいことがあるという方、いらしたら、ぜひ、お願いします。

(委員)

すみません、いろいろ皆さんに意見を頂いた中で、ちょっと聞いていた中で、生き生きですとか、夢を持って、あるいは、つながり、魅力、心豊か、生きる力、誇り、これ、大きな指針だと思うんですよ。でも、心豊かって何なんですか。どうしたら心豊かなんですか。これ、小規模でも心豊かな子供は育つと思えますし、大規模になっても育つと思えます。指針としては必要なんですけど、具体的に心豊かって、どんなふうに心豊かにするのか、そのためにどんなことをするのかというのが、どこにも多分、ないんで、保護者の目線になったり、子供の目線になったり、いろんな目線になったりして、全然多分、分からなくなると思うんです。

例えば、具体的に、学校統合したら、要は、通学手段どうなるのというのだけでも、答えが見えてたら、いや、保護者の皆さんに、一律ひと月1万円負担していただきますという話になると、ちょっとこれは、お金の問題も大事ですからね。いや、無償ですという話やったら、全然また違うと思うんですよ。それも1年生とか6年生によって帰る、下校の時間が違うと思うんですね。家の近くまで迎えに来てくれたり、送ってくれたりすると、保護者としては、そしたらいいかなと思ったりすると思うんですけども、その具体的なところがはっきりしてないのに、心豊かやとか生きる力やとかだけ議論されても、やっぱり視点は全然変わるとして、答えは多分、出えへんだろうなど、私は思うんです。

だから、次の会合のときに、少しでも具体的なシミュレーション、学校が統一になったときに、学校の管理というかお金の管理というのを行政がされてるのか分かりませんが、廃校になるというか、あぁいった学校の費用というか、それはどうなるんですかね。大きい学校を一つ、建てるんですよ。そこの学校建築の費用というのは、多分、今、地域の住民からお金を出してる学校、あと、行政から出てるんですかね、税金。それってどうなんですかね。どれぐらい地域の皆さんは負担せなんのか、我々保護者が負担せなあかんのかとか、ちょっと具体的に分からなくて、ちょっとそこがね、いや、お一人様、すみません、一家庭30万負担してくださいって言われると、お金の話だけするわけじゃないんですけど、ちょっと分からない。大きくなるのはいいんですけど、その代わり、物すごく豊かになるっていうのが、こんなふうに豊かになるとか、こんなふうに魅力があるとか、楽しくなるとかいうんやったらいいんですけど、ちょっと具体性が

変わってきてるから、どうなんかなというのが、ちょっと疑問ですね。次のときに、ちょっとまた少しはつきりしていただけたらなと思います。

(川上委員長)

はつきりしてるものと、恐らく、はつきりしにくいものがあると思うんですね。大きい学校になったら、大きい学校になったなりに追求できるものと、小さい学校を残したら、小さい学校を残したなりに追求できることがあって、それが割と錯綜するというのが学校統合の議論のある種、難しいところかなと思います。

思いを聞かせていただいたというのは何かというと、いずれの結論を得たとしても、得た結論の中で、どこに心砕いて、新しい学校づくり、学校が残るとしても、残った中で、新しいやり方というのを考えていかなければ、ただぼうっと残すだけのためにこの議論をするというのは、非常に生産性のない話ですから、残すなら残したなりに、何の工夫が要るのかと、統合するなら統合したなりに何の工夫が要るのかという話を、次のことですよね、考えていく上で、皆さんの思いであったり願ひであったり、「こう育てたい」の部分というのは、非常に大事になってくるというふうに理解しています。

おっしゃるとおりで、なかなか具体の像が結びにくい。大きな集団でできる心豊かさと小さな集団でできる心豊かさっていうのは、突き詰めると違うものがあると思います。出た結論に合わせて、じゃあ、そこでは、ほっといたら、なかなかできないものというのを、どういう手だてを追加的に加えていくことで保障していくことになるのかと、そういうのを作り込んでいくというのが、恐らくこの議論を少しでも生産的にしていく、だから、繰り返しになるんですけど、最初に統合、残すの話をしてしまうと、その辺の話が全部どっかに飛んでいってしまって、統合か残すかみたいな話になってしまうと。これはまことによろしくないと思いますので、おっしゃるところはごもっともなんですけど、多分これ、次のステップか、次の次のステップに行ったときに、注意すべきこととか、次の構想として心砕くべきことの指針になるお話なのかなというふうに思っておりますので、引き続きお付き合いいただければと思います。ありがとうございます。よろしくお願ひします。

(副委員長)

今、ちょっとお聞きしてて、大体順番にお話しされたんで、私、前山地区自治振興会の会長をしている立場から、この前から、統合のところはお話、役員会等で話をさせていただくんで、その今、現状的なところをちょっと知っておいていただきたいなということで、ちょっとお話しさせていただきます。

実は、一応、各自治会の自治会長さん13名おるんですけども、この前も、去年からもこういう話はさせていただいてるんですけども、まず、5小学校の統合が望ましいと考えるというところの提言で答申されたというのは、基本的には、そうであろうなど。まして、今日、資料を頂いたところで、前山小学校のゼロ歳児から5歳児については、今のところ、3月31日現在では、43人と。今、小学校1年生から小学校6年生は80名おられますということで、今の推移でしたら、五、六年先には、もうこんな数字になっちゃうんかということのを改めて私らも知ったところもあるんでね。

ただ、今、先生のほうもおっしゃったように、もう少し大きい器で、地域の中で子供さんをどう育てていくのかとか、学校と地域との関係は方向性としたら、こういう方向性でというようなのも僕は必要だとは思ってるんです。ただ、地域で話をする場合は、統合が望ましいというところを基本的なスタンスで物事は考えるんですけども、今日のお話の中にでも、

例えば、各校区で今、コミュニティ・スクールというところで取り組んでおられると思うんです。ようやく小学校と地域とのつながりの中で、例えば、学校支援部の本読み隊とかクラブ活動とか、たんばふるさとの学びとか、ふるさと交流、水田、田植え、稲刈り、餅つきと、そういういろんな地域の方と小学校の児童のつながりで今、動かしてるんです。

ただ、こういう地域と小学校生の方たちとのつながりが、統合された場合はどういう形が取れるんかというようなところを、これも短絡的に統合する、統合しないというような議論になっちゃうんで、ちょっとあれなんかなと思うんですけども、今日現在のスタンスとしては、5小学校の統合が望ましいというところの基本的な方向性は、意識的には、方向性としては、皆の総意となってるんかなというところで、お話はさせていただいてます。

ただ、先生もおっしゃっていたように、次回からはそういうところの具体的な話も出るのかと思うんですけども、一応、前山校区については、そういう方向性で、今、皆さんとお話をしている現状を報告をさせていただきました。

(川上委員長)

ありがとうございます。さまざま意見を出していただきまして、本当にありがとうございます。また議論自体、続いてまいりますので、ぜひ、また繰り返になってしまうんですけど、どうしたいのかということに、ぜひ着目をしての議論が広がって、広げていただけるといいなということを考えております。

現時点で、想定をしておりました質疑応答、意見交換については、こういったものと考えております。引き続き、これ以降の何か御意見ですね、次回の折にまた出していただけるといいなというふうに思っております。

では、8の質疑応答、意見交換は一旦、ここで閉じさせていただいて、進行を事務局に戻す形でよろしいですかね。よろしく申し上げます。

(足立教育総務課長)

たくさんの御意見ありがとうございました。また次回につながっていけばというふうに思っております。

## 次第

### 9 次回委員会の日程について

(足立教育総務課長)

それでは、次第のほうの9番、次回委員会の日程についてということですが、先ほど川上委員長さんのほうからもありましたように、今日出していたいただいたような御意見、あるいは、どういった子供を育てたいのかというところを委員さんのそれぞれの関係のところでも少し時間を取っていただいて、考えていただく期間を設けたいなというふうに思っております。そういったところから、次回の委員会は、8月下旬から9月上旬というところで、正副委員長さんと日程のほうを調整させていただいて、できるだけ早い時期に御案内をさせていただきたいというふうに考えておりますので、御了解のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

というところが、次回の日程です。

## 次第

### 10 閉会

(足立教育総務課長)

続いて、10の閉会ということになりますが、坂根副委員長様のほうで閉会の御挨拶をよろしくお願ひいたします。

(副委員長)

本日は大変お忙しい中、第1回小学校統合検討委員会に御出席していただき、ありがとうございました。また、委員皆様からのこういうところは

どうなるんだろうとか、前向きな御意見等も頂きまして、大変ありがとうございました。

次回からの会議につきましては、今日、委員長の川上先生のほうから、ある方向性というの、今日、お聞きできましたし、また、今日の話の内容は、事務局の方がある程度、前もって資料は頂けるように聞いてますので、またそれを見ていただいて、次回の8月下旬か9月上旬に予定されてるようなことをお聞きしましたので、また、次回の会議に向けて、それなりにそういう資料を見て頂いて、また、具体的な議論になるように思います。

以上、今日の次第については全て終わりましたので、閉会の挨拶に代えさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。